

# 斑点米カメムシ類情報第3号（イネカメムシ）

令和5年8月18日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 斑点米カメムシ類のうち、特にイネカメムシの発生が多い状況です

### 1 発生状況

8月上旬に県内47地点94ほ場で行った本田における20回すくい取り調査の結果は表1のとおりでした。種類別では特にイネカメムシの捕獲数が平均2.15頭（平年0.52頭、前年1.45頭）と、過去10年間と比較して最も多い状況でした。

表1 斑点米カメムシ類の8月上旬本田すくい取り調査結果（1ほ場あたりの平均捕獲虫数）

| 種類        | 発生量 | 本年   | 平年   |
|-----------|-----|------|------|
| ホソハリカメムシ  | やや多 | 0.24 | 0.18 |
| クモヘリカメムシ  | 並   | 0.48 | 0.57 |
| シラホシカメムシ類 | 並   | 0.06 | 0.07 |
| イネカメムシ    | 多   | 2.15 | 0.52 |
| カスミカメ類    | やや少 | 0.47 | 0.94 |
| ホソナガカメムシ類 | 並   | 0.00 | 0.05 |
| ミナミアオカメムシ | 並   | 0.19 | 0.30 |
| 合計        | やや多 | 3.60 | 2.63 |

（平年：平成25年～令和4年の平均値）

### 2 防除対策

イネカメムシは、出穂直後から穂を加害して不稔穂を発生させます。今後、出穂期を迎えるほ場では発生に注意しましょう。特に、周囲のほ場でイネカメムシの発生が多い場合は、ほ場の発生状況をしっかりと確認しましょう。

イネカメムシに対する防除は、その他の斑点米カメムシ類と比べて加害する時期が早いため、出穂期に効果が表れるように薬剤防除しましょう。その後も発生が多い場合は、7～10日後に再度防除を行いましょう。

その他の斑点米カメムシ類に対する防除対策については、8月1日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

表2 イネカメムシに対する主な防除薬剤

| 薬剤名       | 使用時期     | 本剤の使用回数 | IRACコード |
|-----------|----------|---------|---------|
| トレボンEW    | 収穫14日前まで | 3回以内    | 3A      |
| キラップフロアブル | 収穫14日前まで | 2回以内    | 2B      |
| スタークル液剤10 | 収穫7日前まで  | 3回以内    | 4A      |

成分ごとの総使用回数に注意しましょう。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示します。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf)を参照しましょう。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。